

「平成 29 年度外国人介護福祉士候補者 受入事業に係る意見交換会」レポート

昨年度、道内では1名の外国人介護福祉士候補者の方が国家試験に合格し、この春から介護福祉士として道内の施設で勤務しています。道では、候補者の国家試験合格と道内での就業定着に向けた連携を図るため、昨年度の参加者である4施設に、今年度新たに候補者を受け入れた（福）清恵会を加えた5施設の候補者と支援担当者等による意見交換会を開催しました。

（期日：平成29年8月24日（木） 会場：（医）喬成会 介護老人保健施設オアシス21）

（医）喬成会における EPA 候補者の受入・学習支援について

医療法人喬成会の担当者から、法人における外国人介護福祉士候補者受入の経緯や、施設での学習支援について説明があり、講師の方から「日本語の読み書きに慣れるため、日記を書くように指示し、毎日職員と交換日記のようにしている」、「介護福祉士国家試験の過去問にふりがなをふったものを活用している」等の状況の報告がありました。



法人担当者による報告

第 29 回（平成 28 年度）介護福祉士国家試験受験に係る報告

医療法人アンリー・デュナン会では、前回の試験で惜しくも不合格となった1名の候補者が、再度試験を受け合格することができました。合格者本人から、流ちょうな日本語で「直前期間に試験



合格者による日本語での報告

対策に重点を置かなかったこと、過去問中心に学習を進めなかったことや自分自身が本番に弱かったことが合格できなかった原因」と前回の試験の振り返りと、合格のための勉強法として「模擬試験問題を解き、解説をもとに一つ一つ復習することで問題と選択肢の理解につながった」などといった報告があり、これから試験を受ける後輩たちへ「私のようにつらく苦しい1年を過ごさないよう、一発で合格してください。」とメッセージが送られました。

意見交換

意見交換は支援担当者と候補者とに分かれて実施しました。支援担当者の方々は、候補者の日常の介護業務や日本語の学習方法などについて、それぞれの施設で抱える悩みや好事例を共有しました。